授業科目名	ヨーロッパの歴史と文化	単位数	2単位
担当教員名	平岡麻里	担当形態	単独
実務内容 （実務家教員の場合）			

「学位授与の方針」との関係

DP2.共生社会創造のために、教育、福祉、環境、国際関係、スポーツ身体表現、等の専門的知見を得ることができる（専門知）
DP4.個人や社会にとって必要な課題の解決のため、自律的な課題探究能力を身につけ実践することができる（実践力）

授業のテーマ及び到達目標

(1) 「ヨーロッパとは何か」を歴史や文化を通じて理解し、自分なりに説明できる。
(2) 現代イギリス社会の状況と課題を歴史的および文化的背景を踏まえて説明できる。
(3) ヨーロッパまたはイギリスについて、自身の興味・関心に応じて調査（リサーチ）を行い、その結果を論理的な文章にまとめることができる。

授業の概要

「ヨーロッパ」と聞くと統一された地域のイメージが浮かぶかもしれない。しかし、イギリスの EU 離脱からもわかるように、ヨーロッパは決して一枚岩の共同体ではない。この授業ではヨーロッパをヨーロッパたらしめているものは何かを歴史的に検討した上で、「ヨーロッパであり、ヨーロッパではない」といわれるイギリスを、文化と歴史的背景の両面から考察し、ヨーロッパの歴史と文化への理解を深めることを目的としている。

授業計画

【履修にあたっての注意】
What do you read at university?　この質問のreadは「（大学で）学ぶ」ことを意味しています。「読む＝大学で学ぶ」なのです。この授業のテキスト２冊は良質ですが、大学教養課程および一般読者を対象としています。授業ではこれらを通読した上で、自分の興味・関心に応じてより専門的な文献を求めて図書館を訪問することが課されます。その調査（リサーチ）から得た情報を基に、自身の考えを論理的にまとめることが求めらます。テキストを読むだけで学修が終わる授業ではないことをあらかじめ理解した上で履修を検討してください。

第１回：オリエンテーション：図書館の利用と文献検索
第２回：超約ヨーロッパの歴史（『超約ヨーロッパの歴史』第１～２章）
第３回：ヨーロッパ史の諸相（『超約ヨーロッパの歴史』第３～８章）
第４回：破壊的な諸力（『超約ヨーロッパの歴史』第９～１０章）
第５回：ヨーロッパの命運は東方にあり（『超約ヨーロッパの歴史』後記）
第６回：「ヨーロッパとは何か」を考える（『超約ヨーロッパの歴史』および参考書、その他の文献）
第７回：文献研究の実践—レポートの作成（『超約ヨーロッパの歴史』、参考書、その他の文献）
第８回： 連合王国から見るイギリス（『イギリスとEU』第１章）
第９回： ＥＵ離脱から見るイギリス（『イギリスとEU』第２章）
第１０回： 歴史から見る今のイギリス（『イギリスとEU』第３章）
第１１回： ２大政党制から見るイギリス（『イギリスとEU』第４章）
第１２回： 階級社会から見るイギリス（『イギリスとEU』第５章）
第１３回： 軍事大国としてのイギリス（『イギリスとEU』第６章）
第１４回：日本とイギリス、日本とヨーロッパ（『超約ヨーロッパの歴史』日本語版への序文、『イギリスとEU』第６章、参考書、その他の文献）
第１５回：歴史を通じた現代イギリス社会や文化への考察ー科目修得試験（『イギリスとEU』、参考書、その他の文献）
科目修得試験

スクーリングでの学修

テキスト

ジョン・ハースト（2023）『超約ヨーロッパの歴史 増補版』東京書籍、978-4487816897
池上彰（2019）『池上彰の世界の見方 イギリスとEU：揺れる連合王国』小学館、978-4093887335

参考書・参考資料等

増田四朗（1967）『ヨーロッパとは何か』岩波新書、978-4004130147
指昭博（編著）（2019）『はじめて学ぶイギリスの歴史と文化』ミネルヴァ書房、978-4623063765
小風秀雅（2023）『世界史のなかの近代日本』山川出版社、978-4-634-59131-8

学生に対する評価

レポート評価（50%）、科目修得試験（50%）